



第612号

「島のひろば」編集委員会

電話 04992-2-8256

Eメール・jcposhima@yahoo.co.jp

www3.plala.or.jp/jcposhima/

(検索サイトからは「大島町議団」)

くらしの相談は共産党町議団へ
山田2-3670 橋本2-3614 小池2-9318

憲法9条のおかげで戦争を しない日本 これまでも

これからも、ずっと!

だから安倍改憲ストップを ごいっしょに

日本国憲法9条

戦争の放棄、戦力と交戦権の否認

日本国民は、正義と秩序を基調とする国際平和を誠実に希求し、国権の発動たる戦争と、武力による威嚇(おどし)又は武力の行使は、国際紛争を解決する手段としては、永久にこれを放棄する。

2 前項の目的を達するため、陸海空軍その他の戦力はこれを保持しない。国の交戦権は、これを認めない。



志位委員長

日本国憲法施行72回目の記念日5月3日、東京の憲法集会には、6万5千人が集まりました。この集会で行った日本共産党志位和夫委員長の「あいさつ」の概略を紹介します。
志位氏は、「安倍9条改憲のどこが問題か。私は、そのことを自ら告白したのが、自民党が昨年の党大会でまとめた9条改憲の条文案だと思えます。そこには二つの大問題がある」と前置きし次のように述べました。
9条2項(戦力不保持・交戦権否認)が立ち枯れ、死文化される

第一に、自民党の条文案は、9条2項(別掲参照)の後に、「前条の規定は、自衛の措置をとることを妨げない」として、自衛隊の保持をうたっています。「前条の規定は：妨げない」ということになり、9条2項の制約が自衛隊に及ばなくなり、2項が残ったとしても、立ち枯れとなり、死文化(条文だけあって実際は効力がなくなる)されてしまいます。
私たちの日本国憲法9条を9条たらしめている9条の命は2項にこそあるのではないのでしょうか。戦後、自衛隊は、ただの一人の外国人も殺していない、ただの一人の戦死者も出していない。9条2項のおかげではないのですか。

安倍首相は「自衛官の子どもが悲しむ」といつて9条に自衛隊を書き込むといっています。しかしみなさん、子どもさんが一番悲しむのは、お父さんが戦争で命を落とすことではないですか。その点では、自衛隊員の命をも守ってきたのが憲法9条ではないでしょうか。



(5・3憲法集会に6万5千人。大島からも5人参加。東京江東区の防災公園)

ときの政権が、法律さえ通せば、「自衛隊の行動」を無制限に拡大できる

自民党の条文案には、もう一つの大問題があります。それは、「自衛隊の行動」は「法律で定める」と書いてあることです。これは、ときの多数党と政府が、法律さえ通せば、「自衛隊の行動」を無制限に拡大できるということにほかなりません。

これまで政府は、「自衛隊の行動」を憲法(9条)との関係で説明してきました。
●武力行使を目的とした海外派兵はできない、集団的自衛権の行使はできない。
●攻撃型航空母艦や戦略爆撃機やICBM(大陸間弾道ミサイル)など相手国の

壊滅的破壊のための武器は持てない。
●徴兵制はできない、などと説明してきました。

ところが憲法に自衛隊とひとたび書かれてしまうと、そういう説明が一切いらなくなってしまうのです。これまで憲法との関係で「できない」とされてきたことが、ときの政権の一存で自由にできるようになってしまいました。自衛隊は、憲法の制約から解き放たれ、ひとり歩きすることになってしまいました。

海外派兵も、徴兵制も、核武装さえ可能になる、歯止めのない軍事大国化の道は断固拒否しようではありませんか。

市民+野党が総結集して 憲法9条守り抜く政治を



参議院議員

吉良よし子
日本共産党

(日本共産党都委員会の見解を紹介します)

第二回臨時議会報告

日本共産党町議団

選挙後はじめての臨時議会(第2回)が5月8日開かれ、議会人事などを決め閉会しました。

議長に坂上長一氏を選出

副議長には高橋辰夫氏

選挙後の初議会は、議長が選出されるまで、出席議員のうち最年長の議員が臨時議長として議長の職務を行います。今回は橋本博之議員が臨時議長をつとめました。



小池 渉議員 橋本博之議員 山田忠敬議員

議長には、坂上長一、鶴崎勝彦両議員が立候補、投票の結果、7対7の同数となり、抽選の結果坂上議員が選出されました。

副議長には、高橋辰夫氏が立候補、投票の結果6票を獲得、比較多数で高橋が選出されました。

副町長に橋田竹弘氏

三辻利弘町長は、「副町長に橋田竹弘氏を選任したい」と、議会の同意を求め人事案件を提案、議会はこれを承認しました。橋田竹弘氏は、前副町長。岡田出身。

その他の議会人事

総務文教経済 常任委員会

委員長	小池 渉
副委員長	村田 学
委員	坂上長一
委員	高橋千香
委員	鶴崎勝彦
委員	中村佳一
委員	本宮悦見

住民福祉環境 常任委員会

委員長	関野茂夫
副委員長	清水光一
委員	川崎和光
委員	佐藤勝人
委員	高橋辰夫
委員	橋本博之
委員	山田忠敬

議会運営委員会

委員長	鶴崎勝彦
副委員長	佐藤勝人
委員	小池 渉
委員	関野茂夫
委員	高橋辰夫
委員	高橋千香
委員	山田忠敬

議会だより 編集委員会

委員長	小池 渉
副委員長	村田 学
委員	坂上長一
委員	清水光一
委員	関野茂夫
委員	山田忠敬

拾遺編

青山光二再び

絶筆「あゆべよ」のこと

八

483 時得孝良

操と源吉 仲良しの幾代と再度六踏園に姿を見せた操は、帰りがけに梶木に「先生、岡田へ遊びに来いよ」とはじめて声をかける。梶木は、その四、五日後誘いに応じて岡田村の操宅を訪ねる。

家には操の兄源吉がいて、梶木は源吉が木炭問屋「江戸市」の持ち船「江戸丸」に、乗り組んで働いていることや兄妹の身の上を聞かせてもらう。(「江戸市」「江戸丸」は次号で取り上げる)操と源吉の身の上とは・・・原文を抜き紹介しよう。(・・・が中略部分)

《源吉は、・・・二、三枚の台紙に貼った写真を抜き出し、その一枚を、「これが操の母親です」と梶木に手渡した。・・・頭髪を引っつめにした、化粧の跡のない顔が操にそっくりだった。・・・操が九つのときに伊東で亡くなったんですよ」妹は可哀そうな奴だ、という口調で源吉は云った。・・・伊東町北端れの海岸



「操」のモデル 三間まつ すめた。(次号へ)

大島文学・紀行散策